

# 実績報告書

届出者	住所	東京都港区元赤坂1-6-6 安全ビル	氏名	総合警備保障株式会社 代表取締役社長 青山 幸恭
特定事業者の主たる業種		95その他のサービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		警備会社で大阪府下一円で車両を使用する機械警備業務、現金輸送車を使用して他府県に渡る、警備輸送業務を実施している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,233 t-CO <sub>2</sub>	2,969 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,330 t-CO <sub>2</sub>	3,088 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	3.0 %	3.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	1.2 %	2.8 %	7.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>各事業所ごとに5月初旬から10月末までのクールビズやウォームビズの推進による、温度計を用いた適温監視、休憩時間の室内消灯や照明不要箇所の照明器具取り外しによる間引き照明、PCの節電設定のシステム化、エコドライブの推進や業務の効率化による走行距離の削減に努め、前倒しで削減目標を達成できた。次年度も引き続き削減目標を達成するよう努力したい。</p>
--

(2) 推進体制

<p>・各事業所に環境責任者を配置し、温室効果ガスの排出および人工廃熱の抑制に努める。</p>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 冷暖房温度の適 正化	夏場の室温28℃並びに冬場の室温20℃の徹底。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1126) 不要電灯の消灯	トイレ、廊下等の常時消灯。 休憩時間の電灯の消灯。 事務室電灯の間引き。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1126) 離席時、PCを スタンバイ状態	長時間離席時、PCをスタンバイ状態に切り換 え徹底。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) トイレ設備の使用 制限	トイレにおけるジェットタオル使用停止およ び、温水等の停止。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	急発進、急停止、急ハンドルの禁止および、ア イドリングの停止等、エコドライブの推進。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	近畿警送支社	コード (2126) 走行距離の削減	業務の効率化により、走行距離の削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区天満1-1-79	氏名	独立行政法人造幣局 理事長 川嶋 真
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に貨幣、勲章等の製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,558 t-CO <sub>2</sub>	8,067 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,313 t-CO <sub>2</sub>	8,862 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	6.3 %	-0.9 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	6.2 %	-0.9 %	-6.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>造幣局においては、本計画期間中、排出ベースでの温室効果ガスの削減を目標としてきたが、平成29年度は、安定稼働と省エネ対策の徹底した対策をとったが、基準年度(平成26年度)に比べ生産数量が増加したことによりエネルギー使用量が増加したため、温室効果ガスの排出量が増加した。</p>
---

(2) 推進体制

平成17年度に環境マネジメントシステムを構築してISO14001規格に基づく認証を取得し、以後毎年度エネルギーの使用効率の改善を環境目的・目標として掲げて組織的取組みを続けてきている。殊に毎年夏季及び冬季においては、政府方針も踏まえ、空調の節減その他の具体的な省エネルギー対策を徹底してきているところであり、こうした推進体制については、今後とも維持していくこととしている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1126) 休憩時間中の消灯等の徹底	休憩時間消灯等の徹底による照明電力の低減を図る。 ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1216) 室温の設定温度を夏季28℃、冬季19℃	設定温度(室温)を適切に定めることによる空調関係のエネルギー使用量の低減を図る。(夏季28℃、冬季19℃) ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1215) 電気使用設備の省エネ対策の徹底	空調設備、OA機器、照明設備等を調達更新する場合は、省エネ対応機器を優先的に導入し、エネルギー使用量の低減を図る。 ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1218) 蛍光灯をLEDへの交換	蛍光灯をLEDに交換することによりエネルギー使用量の低減を図る。(年間6トンの削減) ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1214) 太陽光発電設備	太陽光発電による発電によりエネルギー使用量の低減を図る。(年間6.4tの削減) ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1214) コージェネレーション設備	コージェネレーションシステムによる発電等によりエネルギー使用量の低減を図る。(年間9.9トンの削減) ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (1217) 排風機等のVベルトを省エネタイプに交換	排風機等のVベルトを省エネタイプに交換することによりエネルギー使用量の低減を図る。(年間8tの削減) ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (5112) 照明の間引き	工場内照明の間引きを行う。 ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (5211) 自家発電の利用	夏季・冬季の期間ピーク時間帯に、自家発電を利用する。(年間4.3tの削減) ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	造幣局本局	コード (5231) デマンド制御システム	デマンド制御システムを導入しており、安定した機器や設備を稼働できるように運転管理を行う。 ⇒H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--

\_\_\_\_\_

# 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区二番町 5番地25	氏名	株式会社そごう・西武 代表取締役 林 拓二
特定事業者の主たる業種		56各種商品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		百貨および食料品陳列販売業ならびにこれに関連する製造業、加工業、卸売業、請負業、賃貸業、輸出入業および代理業ならびにショッピングセンターの経営等		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	16,858 t-CO <sub>2</sub>	2,945 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	19,175 t-CO <sub>2</sub>	3,360 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	1.5%	29.8%
削減率(平準化補正ベース)		-	1.4%	7.2%	29.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (営業面積×営業時間 単位: m<sup>2</sup>・h)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>夏期節電要請への対応として一部照明の消灯や店内冷房温度の緩和(+1℃、26→27℃)を実施。また、継続して、店内改装工事のタイミングで演出照明の見直しを行うとともに、ランプ交換周期にあわせて、高所照明やランプ交換難易箇所へLED照明を採用する。</p>
<p>西武高槻店：2017.10.01 株式会社エイチ・ツー・オー・アセットマネジメント へ譲渡</p>

(2) 推進体制

<p>・1999年に西武百貨店全店で環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得、同システムに則り地球温暖化対策を推進している。</p> <p>・各店舗で環境管理委員会を組織し委員長である店長のもと環境管理委員会を1回/月開催、マネジメントの実施状況、計画の進捗状況を確認している。また環境マネジメントに関する研修と内部監査を1回/年実施し、継続的に従業員のスキルアップとマネジメント実施状況の確認を行っている。</p>
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1218) LED照明の採用	高所照明やランプ交換難易箇所にてLED照明を採用する。 実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 演出照明の見直し	店頭での演出照明を見直し、照明負荷を低減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 夏期節電対応	夏期節電対策対応として ・店内冷房温度を緩和 ・共用通路照明等の減灯 ・業務用エレベータの交互運転	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1218) LED照明の採用	高所照明やランプ交換難易箇所について、ランプ交換のタイミングでのLED照明採用を随時実施 実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	西武八尾店	コード (1218) 基本照明高効率型安定器の採用	基本照明安定器を高効率型へ更新する。 削減見込：1.3[t-CO2/年] 27年度：未実施 店舗閉鎖に伴い未実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	西武八尾店	コード (1216) 空調機の更新	高効率型の空調機へ更新する 28年度：店舗閉鎖に伴い未実施	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	西武高槻店	コード (1216) 空調機の更新	高効率型の空調機へ更新する 28年度：一部実施済み 29年度一部実施済み及び譲渡により一部未実施	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2224) 納品代行システムの利用拡大	納品商品を納品代行会社の倉庫に一括集荷し、納品便を効率化して店舗への出入車輛を抑制する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区内淡路町3丁目1-3	氏名	株式会社ソフト99オートサービス 代表取締役 小宅 一
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		各種自動車の板金・塗装修理、整備 各種自動車のリースおよびレンタル 各種自動車および自動車用品の販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	341 t-CO <sub>2</sub>	1,036 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	341 t-CO <sub>2</sub>	1,109 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0.5 %	-74.8 %	-216.8 %	-203.9 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-237.5 %	-225.3 %	
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成26年度に比べ、社有車両や工場の稼働率が上がったことにより、平成27年、平成28年と電気、ガス、燃料の使用量が全体的に上がりましたが、平成29年度は前年に比べ少しだけ改善ができております。</p>
---

(2) 推進体制

全社的に温暖化防止対策に取り組むため弊社管理本部を主幹事業部として、現状改善などを検討していきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低公害車の率先 導入	レンタカー車両の代替時には、トップランナー 基準認定車を率先導入する。	2015 年度
	人工排熱				～
					2018 年度
2	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ促 進	車両配回送時および営業活動時には、アイドルリ ングストップの徹底するとともに、アイドル数 を抑えた走行を徹底する。	2015 年度
	人工排熱				～
					2018 年度
3	GHG排出	全事業所	コード (2126) 輸送効率化	車両引取時にはできるだけ公共交通機関を利用 するとともに、台数がまとまる場合には、積載 車の利用を実施する。	2015 年度
	人工排熱				～
					2018 年度

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者		住所		大阪府大阪市西区江戸堀1-11-4		氏名		損害保険ジャパン日本興亜株式会社	
		損保ジャパン日本興亜肥後橋ビル11階				関西総務部長		大川内 由美子	
特定事業者の主たる業種				67保険業（保険媒介代理業、保険サービス業を含む）					
該当する特定事業者の要件				レ		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者			
				レ		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者			
事業の概要				1. 損害保険事業 〈引受け〉火災保険、海上保険、傷害保険、自動車保険、自動車損害賠償責任保険、その他の保険、各種の再保険 〈資産の運用〉 2. 他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行 3. 債務の保証 4. 確定拠出年金事業 5. 自動車損害賠償保障事業委託業務					

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間									
2015 年		4 月		1 日～		2018 年		3 月 31 日 (3年間)	

### (2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,016 t-CO <sub>2</sub>	8,641 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	7,819 t-CO <sub>2</sub>	9,621 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

### (3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3.0 %	-18.3 %	-23.9 %
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		-	%	-22.4 %	-23.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H29年度 (第3年度) の削減状況は平準化補正ベースでH26年度 (基準年度) 比-23.2%となっているものの、当社事業所で最もエネルギー使用量の多い千里ビルにおいてその約90%がテナントによる使用であり、当該テナントへの貸出スペースが年々増加していることが使用量増加の主要因の1つとなっています。          当社では、対策計画で掲げた取組が浸透し、その結果自動車保有台数が年々減少するなど、今後のエネルギー使用量削減に向けた動きが着実に進んでいます。</p>
---

(2) 推進体制

<p>関西総務部が事務局となり、ビル管理を委託しているSOMP0ビルマネジメント社と共に各種対策を打っていく。</p> <p>1. 全社EMS活動の一環である「ECOルール推進表（省エネに関する取り組みチェックリスト）」の徹底、CSR環境委員・アドバイザーの選任（各部署最低2名ずつ）・取組み推進。 2. 基幹ビルにおける夏期・冬期節電対応の継続、節電技術蓄積による効率的な節電の実施。</p>	
---	--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 環境マネジメントシステムの推進	各部署で環境マネジメントシステムの推進メンバーを選定し、各部署単位での環境の取り組み目標の策定、計画を実行、チェックシートによる進捗確認	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1126) 前期間中の対策の継続実施	夏季・冬季の電力需要のピーク時の節電（照明間引き運用・未使用時の消灯励行、節電モード・元電源OFFによるコピー機等の待機電力抑制、ノー残業デーの設定）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 前期間中の対策の継続実施	クールビズ・エコビズ・ウォームビズの取組みに合わせ冷暖房の設定温度の管理並びに運転時間管理を行う（夏季：室温28℃、冬季20℃設定）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1126) 前期間中の対策の継続実施	照明・事務機器は、不要時において適宜電源を切るか低電力モード設定を行う事を徹底させる	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪ビル 千里ビル 守口ビル	コード (1126) LED照明等の導入	LED照明等の低消費電力機器に順次変更行い、消費電力を抑える（H27年度大阪ビル1階駐車場・通用口通路天井、H28年度守口ビルフロア導入計画有）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪ビル 千里ビル 堺宿院ビル 守口ビル	コード (1127) 電気使用量の管理	デマンド監視装置による電気使用量の管理を行う	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	肥後橋ビル	コード (1127) 電気使用量の管理	空調用冷却水ポンプのインバーター制御工事（14階サーバー室、地下電気室）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	肥後橋ビル	コード (1199) 遮熱シートの貼付	窓ガラスに遮熱シートの貼付け（H27年度：各階トイレ窓に貼付）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	南港研修所	コード (4210) 屋上緑化の実施	屋上緑化の実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2214) 減車	余剰車の管理の徹底、および公共交通機関の利用の促進をし、無駄な社有車の減車を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 走行距離・燃料消費量の把握	各事業所単位で、自動車毎の走行距離・燃料消費量等のデータを定期的に記録し、管理している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	GHG排出		コード (2122)	市内の移動または遠方への移動は、可能な限り	2015 年度

3	レ	人工排熱	全ての事業所	公共交通機関などの利用の促進	公共交通機関・自転車等の利用を促進させる事により社有車使用の自粛を推進していく	～ 2017 年度
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの励行・実践（通信機能付ドライブレコーダーを導入し、安全運転診断を行う）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策
